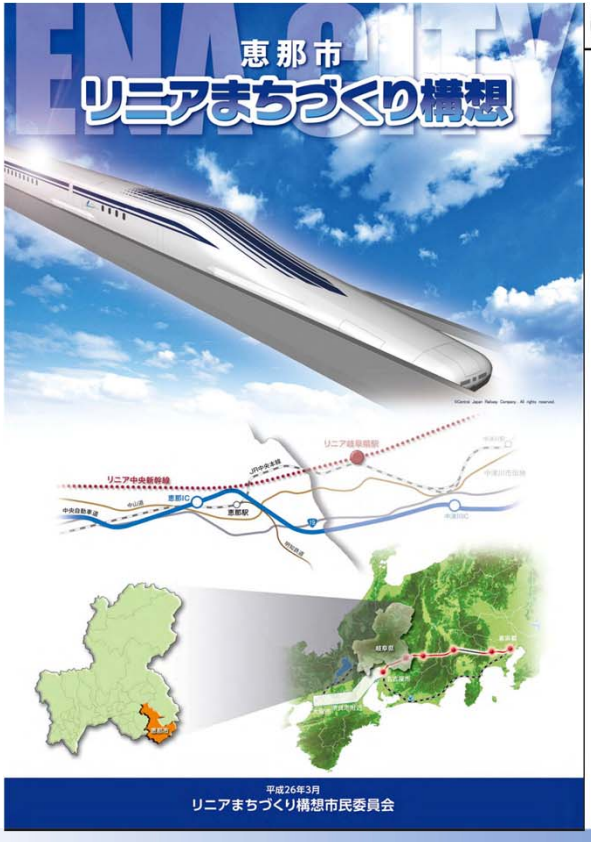


（１）恵那市リニアまちづくり構想の構成と現状

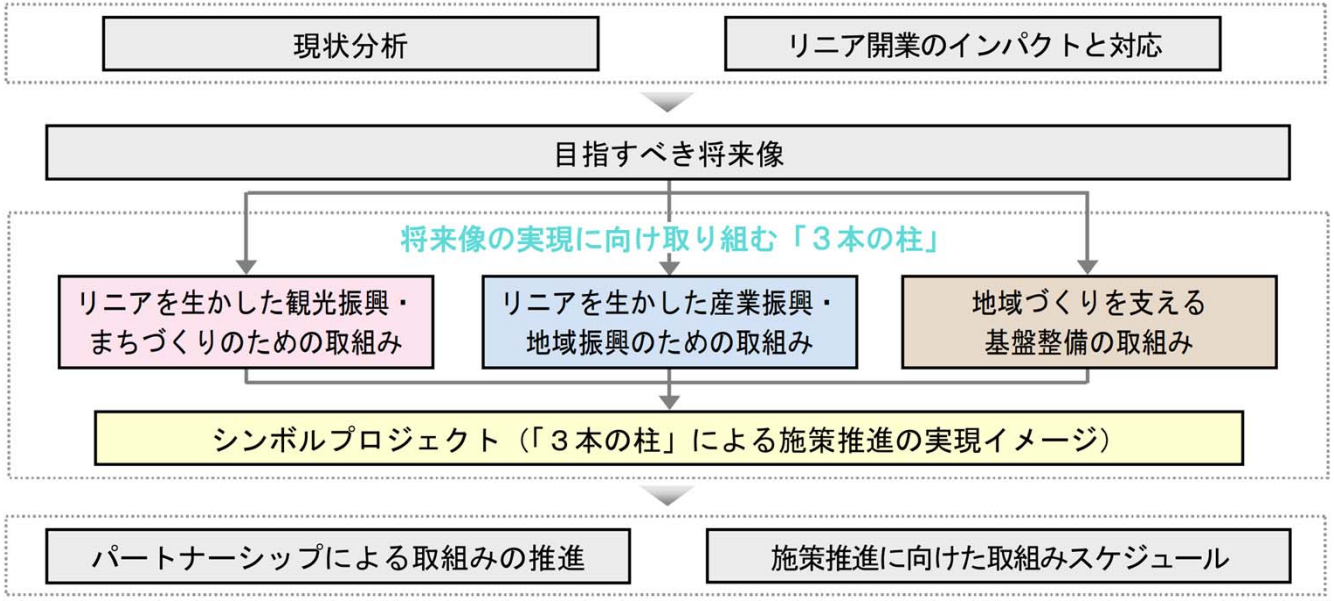
資料①

平成26年3月策定
•第3次恵那市総合計画策定（令和8年4月）
•岐阜県リニア活用戦略改定（令和8年度見直し予定）
これらを踏まえ、構想のアップデートが必要



(4) 構想の構成

本構想は、以下の内容で構成しています。



出典：恵那市リニアまちづくり構想



（２）現構想策定時からの社会の変化

項目	リニアまちづくり構想	みらいビジョン2045
人口問題	人口減少・高齢化への対応が課題	人口減少のさらなる進行を前提に対応
将来人口	2027年約4.4万人を想定	2045年約3.1万人を想定
観光	来訪者増加への期待	関係人口拡大・消費額向上
働き方	主に通勤圏拡大を想定	リモートワーク・多様な働き方を想定
交通	交通網の整備	交通＋デジタルネットワーク
SDGs	記載なし	SDGs未来都市を前提

現構想の目的
「リニア開業をインパクトととらえ、恵那市の活性化に結び付ける」

改訂版の目的
「リニア時代とその先を見据えた持続可能な地域づくりを推進する」



（３）スケジュール（案）

令和８年９月　市民委員会立ち上げ

第１回委員会開催（目的説明）

11月　第２回委員会開催（素案確認）

令和９年１月　構想案完成、パブリックコメント

２月　第３回委員会開催（構想案確認）

３月　完成

■ 岐阜県リニア中央新幹線活用戦略の改定について

資料②



《第２次岐阜県リニア中央新幹線活用戦略の改定》

〇令和８年３月に公表した「『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性」を踏まえ、リニアの開業効果を県内全域に波及させるため、全県的な視点から令和８年度中に第２次活用戦略を改定

〇改定にあたっては、活用戦略の作成主体であり、県、全市町村、産業経済・観光関係者からなる「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会」において検討を実施

〇また、学識経験を有する者等から幅広く意見を聴取するため、「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会」を設置（令和８年４月１日）

（参考：岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会委員）

氏　　名	役　　職　　等	分野
小川　光	東京大学大学院経済学研究科　教授	産業
金室　紀子	中部国際空港株式会社　営業推進本部　航空営業部長	観光
倉内　文孝	岐阜大学工学部　教授	交通
竹内　治彦（座長）	岐阜協立大学経営学部　教授	総括
谷口　綾子	筑波大学システム情報系社会工学域　教授	交通
三井　栄	岐阜大学社会システム経営学環　教授	まちづくり
森下　晶美	東洋大学国際観光学部　教授	観光

【改定スケジュール（予定）】

- **令和８年９月　　次期活用戦略骨子案の確定**
- **令和８年１２月　　次期活用戦略原案の確定**
- **令和８年１２月～　　パブリックコメントの実施**
- **令和９年３月　　第２次リニア活用戦略の改定**



《リニア開業を見据えた取組》

〇県、各市町村等の施策や戦略・計画等へのリニア開業を見据えた取組や対策の反映

〇次期リニア活用戦略に盛り込むべき内容の検討
（骨子案及び原案の作成）

「岐阜×リニア」instagram
公式アカウント





〇開業時期を見据え実施すべき施策の検討
（活用戦略アクションプランの作成）

〇リニア開業に向けた機運醸成を図る取組の実施
（シンポジウムの開催やＳＮＳや動画を利用した情報発信などの広報の強化）

《令和８年度の動き（R8.8.10時点）》

○岐阜県リニア中央新幹線対策本部員会議【R8.4.21】

（県庁内の各部局長で構成する、リニア施策を協議するための庁内会議）

・各部局の施策や計画等へのリニア開業を見据えた取組や対策を反映するなど主体的に取り組むとともに、連携して広報を実施し、県民の機運醸成を図るべく意識を統一

○岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会【R8.5.25】

・活用戦略の改定にあたり、改定方針やスケジュールのほか、中津川市・恵那市のまちづくりの取組などについて共有し意見交換を実施

・各市町村や産業経済・観光関係団体に対し、戦略や計画等へのリニア開業を見据えた取組の反映や、県が実施する広報への協力などを依頼





▶ R8.5.25 岐阜県リニア活用戦略研究会

○岐阜県東濃５市未来のまちづくり協議会【R8.6.9】

・東濃５市（多治見、土岐、瑞浪、恵那、中津川）が連携し、リニアの開業を見据えて、ビジネス交流・企業誘致・観光誘客など、広域的なまちづくりを実現していくために、令和８年６月９日に設立総会を開催（古屋圭司衆議院議員及び岐阜県が顧問に就任）

・今年度は、台湾をターゲットとして捉え、７月26日～28日まで訪台し、台湾企業等とビジネスミーティングを実施

《令和８年度の動き（R8.9.15時点）》



○第１回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会【R8.6.15】

・県境を越えた広域的な周遊の促進や観光資源の磨き上げ、次代を担う子どもたちを含めた機運醸成の必要性などの意見をいただいた

○第２回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略改定に係る有識者懇談会【R8.7.27】

・第１回有識者懇談会の議論を踏まえ作成した次期活用戦略の骨子素案について意見をいただくために開催

○岐阜県リニアシンポジウム「リニアで描く未来を考える」の開催【R8.8.3】

・リニア開業に向けた機運を醸成するため県民とともに「リニアで描く未来」を考える契機とするために開催
・日時：令和８年８月３日（月）15:15～16:30
※リニア建設促進岐阜県期成同盟会総会に合わせ開催
・会　場：東美濃ふれあいセンター（中津川市）
・内　容：講演及びトークセッション
・参加者：約５００人



次期岐阜県リニア中央新幹線活用戦略　骨子素案【概要】

※ 当資料は今後の議論を踏まえ変更する可能性があります

＜戦略の基本的な考え方＞

- ▶「『リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり』の具体的な方向性」の３本柱をベースとしながら、これを東濃・可茂圏域だけでなく、県内全域に広げていく
- ▶ 首都圏・関西圏からの視点をより強く意識する
- ▶ 若者を中心に、リニアを活用したまちづくりに関する県民の機運醸成を図る
- ▶ 国やリニア中間駅設置県などの他の自治体、特に隣接する長野県木曽地域や愛知県西三河地域などと積極的に連携を図る

＜戦略の具体的な方向性＞

【共通認識】 県民とともに描く未来への機運づくり

【方向性】

リニアの開業効果や工事の進捗状況などについて、SNSや動画など各種媒体で、県民、そして首都圏をターゲットとした情報発信を行う。それとともに、特に若者を中心に、リニアを活用したまちづくりを考える機会を創出し、県民がまちづくりに参画・協働する取組を推進

【具体的な施策のイメージ】

❶ SNS等を活用した情報発信の充実・強化　（ＰＲ動画作成、SNSを活用した情報発信　など）
❷ 県民とともにまちづくりを考える機会の創出　（リニア建設現場見学会、出前講座の実施、シンポジウムの開催、リニアに関する副読本の作成　など）
❸ 県民とともに創り上げるまちづくり　（リニアを活用したまちづくりの取組への県民の参画・協働）

1 国内外から訪れてもらえるまちづくり

【方向性】

県内各地に点在する自然や食、伝統文化などのここでしか体験できない**魅力を更に磨き上げるとともに、国内外に発信**していくなど、**観光の質と観光客数のバランスを図りながら取組を推進する**ほか、**交通ネットワークで各地を結び、周遊性を持たせていく取組を推進**

【具体的な施策のイメージ】

❶ 地域資源の発掘・選定・強化
（自然や食、伝統文化などの磨き上げ、魅力発信、リニア岐阜県駅や中部総合車両基地の産業観光活用　など）
❷ 農林業体験やアウトドア活動を楽しむ環境整備
（ゴルフやキャンプなどのアウトドアツーリズムの推進、森林サービス産業の育成やトイレ等の受入環境整備への支援、農泊の推進、体験観光に係る人材育成・確保　など ）
❸ 周遊促進、宿泊の創出
（広域周遊・体験型観光プログラムの開発とプロモーションの推進、日帰り客・滞在時間・交流人口の拡大により宿泊の創出に繋げる取組の推進、ターゲットに応じた観光誘客の推進　など）

2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまちづくり

【方向性】

日本の中央に位置し、津波の心配がないという県が持つ地理的・地形的な優位性と、豊かな自然に囲まれたストレスの無い環境を強みに、**先端産業などの研究機関やサテライトオフィス、教育機関などの誘致や、関係人口の創出、移住・二地域居住の取組などを推進**

【具体的な施策のイメージ】

❶ 関係人口の創出、移住・二地域居住の推進
（地域資源を生かした関係人口の創出、二地域居住、移住者支援、半農半Xなどアグリパーク構想の推進、空き家の利活用、保育園の短期滞在プログラムの推進　など）
❷先端産業・行政機能等の誘致
（本社機能移転やデータセンター、防災庁地方機関の誘致　など）
❸医療・介護体制の整備
（医療提供体制の構築、医師偏在対策、介護人材確保　など ）
❹子育て支援体制の整備
（待機児童解消に向けた人材確保、木育プログラムの推進　など）
❺地域を担う人材の育成・確保
（大学など教育機関の誘致、産業人材等の育成・確保支援、魅力的な教育環境の充実　など）
❻地域を支える産業の育成・支援
（伝統・地場産業の支援・検討、県産材の利用拡大支援）

3 まちの魅力を高める基盤整備

【方向性】

この地域らしい景観を有し、機能的で利便性の高い**リニア岐阜県駅及び駅周辺の整備**、そこへアクセスするため、また、県内を周遊するための**広域道路ネットワークの整備、自動運転なども含めた二次交通の充実等を推進**

【具体的な施策のイメージ】

❶ リニア岐阜県駅及び駅周辺の整備
（「別世界」と感じるリニア駅・周辺整備、美乃坂本駅の機能強化、県産品販売・観光情報発信拠点の検討　など）
❷ リニア岐阜県駅のアクセス道路及び周遊を促進する道路網の整備
（濃飛横断自動車道や国道１９号瑞浪恵那道路等の整備の推進　など）
❸ リニア駅等を起点とした公共交通ネットワークの充実
（自動運転など新技術を活用した公共交通の検討、広域バス路線の創出検討　など）
❹ 交通拠点の機能強化
（リニア岐阜県駅へのアクセス向上のためのパーク・アンド・ライドの推進、在来線の駅周辺整備、交通拠点の機能強化　など）
❺ 安全で安心なまちづくり
（新丸山ダムや木曽川水系連絡導水路の整備の推進、交通事故抑止対策や防犯対策の推進　など）

リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくり

令和8年4月版

まちづくりの具体的な方向性

1 国内外から訪れてもらえるまち
2 首都圏・関西圏の生活圏として、働き住んでもらえるまち
3 まちの魅力を高める基盤整備


春の高山祭


下呂温泉


郡上おどり


ウインタースポーツ

広域的な取組


移住フェア


自動運転バス

木曽川中流域エリア


岐阜バンジー


岐阜のグランドキャニオン


ラフティング


木曽三川サイクルツーリズム

東濃・可茂のグルメ


栗きんとん


五平餅


ボーノポーク


岐阜の地酒


GIFU-DO農泊


ぎふ森フェス


空き家を活用した宿泊施設


ぎふ空き家活用DIYワークショップ


御嶽山国定公園


苗木城跡


地歌舞伎


中山道(馬籠宿)


恵那峡


リニア岐阜県駅とかわまちづくり


シアター恵那


中津川西部テクノパーク

体験、アウトドア


作陶体験


ゴルフのまち


クリスタルパーク恵那スケート場


ラリージャパン


グランピング

恵那市リニアまちづくり構想 改訂の骨子について【概要】

資料③

＜改訂の基本的な考え方＞

- 観光振興・まちづくりは、「観光客数」から「滞在・消費重視」の観光への転換、移住者を受け入れる環境整備を推進
- 産業振興・地域振興は、施設整備中心から多様な働き方、地域資源の高付加価値化、地域内消費へ展開
- 基盤整備は、道路整備の方向性を継承しつつ、次世代モビリティ・MaaS等を組み合わせ移動環境を高度化
- 施策に持続可能性の視点を取り入れ、人口減少下でも維持できる地域づくりを推進

＜改訂の具体的な方向性＞

【リニア時代とその先を見据えた持続可能な地域づくりを推進する】

【方向性】

情報発信に加えて、データを効果的に活用し、地域の活性化や利便性向上を図る
あわせて、省力化・効率化を進め、担い手や人口が減少する中でも持続的な地域活動を支える

【具体的な施策のイメージ】

① 情報発信・データ活用の高度化（WEB・SNSの活用、観光データの収集・分析　等）
② 地域経済や地域活動の持続性向上（地域通貨、スマート農業 等）
③ 移動の利便性向上（次世代モビリティ、MaaS　等）

1　観光振興・まちづくり

【方向性】

滞在時間・観光消費額の拡大を重視し、地域資源の組み合わせや磨き上げ、インバウンド受入、暮らしやすさ向上を一体的に進める。

【具体的な施策のイメージ】

❶ 滞在・観光消費の拡大
体験型コンテンツ、周遊促進、滞在時間延長

❷ 地域資源の高質化
ロケ地・歴史文化等のテーマ化、複数資源の組み合わせ

❸ インバウンド受入体制の充実
案内サインやガイドの多言語化、無料Wi-Fi、日本らしい体験のPR

❹ 移住者に選ばれる環境整備
子育て支援、移住後も暮らしやすい環境づくり

2　産業振興・地域振興

【方向性】

企業誘致に加えて多様な働き方の受け皿を整備し、地域資源の高付加価値化や地域内消費により、持続的な経営を進める。

【具体的な施策のイメージ】

❶ 多様な企業ニーズへの対応
サテライトオフィス等、多様な働き方の受け皿を整備

❷ 地域資源の高質化・情報発信
高付加価値化と効果的な発信でブランド力・認知度を向上

❸ 地域内消費の促進
空き店舗活用、地域通貨等で地域店舗の魅力を高める

❹ 持続的な農業経営と地産地消
スマート農業で省力化・生産性向上、地元産食材の消費拡大

3　基盤整備

【方向性】

道路整備の方向性を継承しつつ、沿道・周辺地域の土地利用、次世代モビリティ、デジタル技術を組み合わせ、移動しやすい交通体系を構築する。

【具体的な施策のイメージ】

❶ 道路整備を活かしたまちづくり
広域交通ネットワークやスマートICの整備に加えて、沿道・周辺地域の土地利用を推進により生活拠点機能を充実

❷ 次世代モビリティの導入
自動運転バス、ラストワンマイル交通の確保により、担い手不足への対応や利便性向上

❸ デジタル技術を活用した移動環境
MaaSにより移動手段を確保し、シームレスな移動を実現